

赤い羽根共同募金



私たちの生活の中で身近に参加できる

ボランティア活動の一つに募金があります。毎年10月1日～12月31日の間に行われる「赤い羽根共同募金」は、民間の運動として昭和22年（1947年）に市民が主体の取り組みとして「国民たすけあい運動」という名前でスタートしました。翌年からは寄附をする赤く染められた羽根を渡すようになり、「赤い羽根募金」または「赤い羽根共同募金」と呼ばれるようになりました。赤い羽根を渡すようになったのは、赤い羽根がアメリカなどで「勇気」や「良い行い」の象徴とされていたことが由来といわれています。

募金の約70%は、募金をした市町村で使われ、残りは市町村を超えた広域的な課題を解決するために、都道府県の範囲内で使われます。使い道は、「高齢者福祉施設への助成」「学童保育」「地域防犯活動」「障害者への活動支援」などさまざまですが、総括すると「地域福祉活動のための募金」です。

また、毎年12月には「歳末たすけあい募金」、災害時には「義捐金（義援金）募集」や「ボランティア活動支援」なども行われています。どなたでも、善意の募金に参加できますよ。

旅路来て客落ち会へり愛の羽根 水原秋櫻子

高岡神社秋季例大祭

七五三や「おなばれ」「やぶさめ」など。

■日時 / 11月15日(金)

午後1時30分～午後2時

…児童奉納踊り（窪川小学校3年生）

午後2時ごろ…御神幸（おなばれ）、流鏑馬（やぶさめ）

午後3時30分ごろ…餅投げ

■場所 / 高岡神社（仕出原）

■イベント内容

11月13日(水) 禊（みそぎ）

11月14日(木) 宵祭り

11月15日(金) 例大祭 七五三・初宮参り

11月17日(日) 七五三・初宮参り

〔お問い合わせ先〕 高岡神社 ☎22-3652

第13回西部地区産業祭

大正・十和地区で交互に毎年行わる「山の暮らし」を見つめなおすイベント。当日は農林産物の品評会や地元団体による出店もあります。

■日時 / 12月1日(日) 午前9時～午後3時

■場所 / 昭和小学校グラウンド・体育館

〔お問い合わせ先〕 十和地域振興課 ☎28-5111

志和ふるさとまつり

志和特産の伊勢エビや獲れたての魚類が食べられます！

■日時 / 12月1日(日)

午前10時～午後3時（雨天決行）

■場所 / 志和漁港周辺

〔お問い合わせ先〕 高知県漁協内（志和ふるさとまつり実行委員会） ☎24-0203

下津井仁井田神社大祭（冬もうし）

男衆に担がれた牛鬼が下津井集落の家々を周り、住民の幸せや豊作を祈願します。

■日時 / 11月25日(月)

午前9時ごろ～正午ごろ 牛鬼練り歩き

午後2時ごろ～ 花取り踊り

午後3時ごろ～ もち投げ

■場所 / 下津井仁井田神社

〔お問い合わせ先〕 大正地域振興局 ☎27-0111

地域活性化イベント シマコン

まちのお悩みをブレインストーミング*で解決しよう！まちの未来を彩るのはあなたのアイデアかも？地域活動に興味のある方。 prestって何？なんとなく面白そう。どんな理由でも大歓迎！あなたのご参加をお待ちしています。

※ブレインストーミングとは、複数人でアイデアを出し合い、ユニークで新しいアイデアを生み出すことを目的とした会議手法の一つ。

■日時 / 12月1日(日) 午後5時～午後7時

■場所 / 岩本寺 本堂

■参加費 / 無料

〔お問い合わせ先〕 シマコン実行委員会 ☎090-9458-6117（吉岡）

四万十ふくふくまつり

～みんなでしよう！わくふくスポーツ～

今年のふくふくまつりでは、お子さんたちも楽しめる「ディスゲッターナイン」

や「ビームライフル」、

「スラックライン」などの体験コーナーと障害者スポーツ

の楽しみ方の講演を企画しています。“わくわく楽しみ”“ふくふく暖かい”スポーツを体験しましょう！

■日時 / 12月7日(土) 正午～午後3時30分

■場所 / 四万十町農村環境改善センター1階多目的ホール

〔お問い合わせ先〕 健康福祉課 ☎22-3115

積み上げよう！経験と石

ロックバルンシングイベントを開催します。ロックバルンシングとは、どこにでもある石を絶妙なバランスで積み上げるバランスアートです。ぜひこの機会に一緒に石でアートを作ってみませんか？

■日時 / 12月14日(土)

【石の日】 午前10時～正午（予定）

■場所 / 大井野橋下の河原（予定）

■参加費 / 無料

〔お問い合わせ先〕 企画課四万十川対策室 ☎22-3124



▲ディスゲッターナイン



▲ロックバルンシング

今月の



人前に出るのが苦手な人でも

どんどん参加して欲しい



よしおが ゆうた 吉岡 裕太さん（若井）

吉岡さんは「劇団しまんと」の俳優さんです。「劇団しまんと」は、昨年6月に、吉岡さんが立ち上げた劇団で、これまで4回の公演を行ってきました。現在、7人ほどで活動しています。

吉岡さんが演劇に興味を持つたのは小学生の頃。旧窪川町時代、「四万十物語」という町民の劇団サークルがありました。脚本も役者も裏方も、すべて町民がこなし、また、小学生から大人までが参加しているという、ユニークな劇団でした。残念ながら、町村合併とともに活動は終りましたが、この時に小学生として参加していた吉岡さん。



▲「劇団しまんと」第一回公演の時の吉岡さん

吉岡さんは「劇団しまんと」の俳優さんです。「劇団しまんと」は、昨年6月に、吉岡さんが立ち上げた劇団で、これまで4回の公演を行ってきました。現在、7人ほどで活動しています。

さんは、学校以外の人たちと一つの作品を作り上げていく楽しさを知りました。窪川高校を卒業した吉岡さんは地元で働きながら「四万十物語」のような劇団を作ろうという挑戦をしました。しかし、当時の吉岡さんには、まだ演劇の知識が十分ではなく、子どもたちへの接し方も未熟だったこともあってうまくいかなかったそうです。吉岡さんは、一度挑戦を中断して、高知市内で働き始めました。そこでも劇団の人たちと出会い「しゃかりき」という劇団や「シアターTACOGURA」という劇団で活動を続けていました。

4年ほど高知で活動した後、窪川に帰ってきて「谷千城ミュージカル」にも参加。そして昨年6月に「劇団しまんと」を立ち上げました。「子どもでも大人でも、また、演劇経験の有無にかかわらず、いろんな人に参加して欲しいです。それから、演劇って役者にスポットが当たりがちですが、実はライトや音声、また道具、小道具など、裏方もみんなが一緒になってやることができる作品です。人前に出るのが苦手な人でもどんどん参加して欲しいと思っています。」と語る吉岡さん。

吉岡さんの視線の先には、「四万十物語」で自身が小学生時代に経験した「学校でも家でもない、もう一つの居場所」があるのだそうです。地元での劇団活動が、誰しもが必要とする「もう一つの居場所」を作ることにつながっていくことを願っています。